資料2-２

有明海・八代海等総合調査評価委員会
第16回水産資源再生方策検討作業小委員会（令和7年1月16日）

ノリ養殖に係る資料の収集・整理・分析状況

令和７年１月
有明海・八代海勉強会

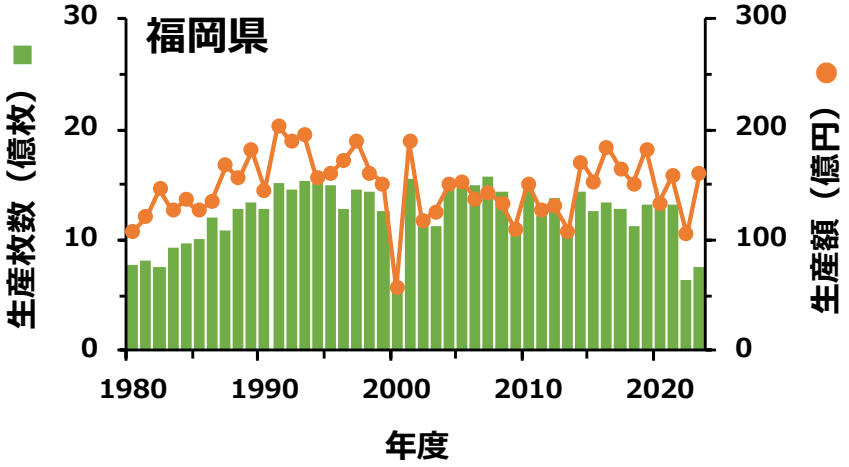
■水産資源小委で収集すべき項目（ノリ養殖）

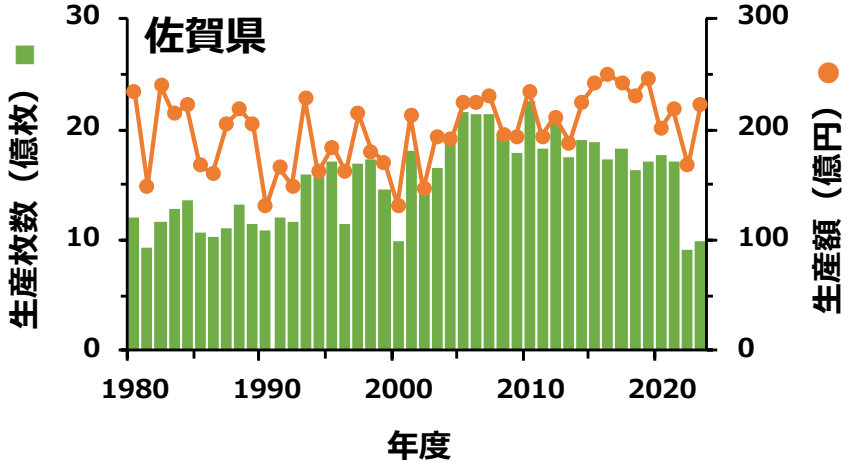
・珪藻赤潮発生の予察、発生機構の明確化
・適切な漁場利用（減柵を含む）による漁場環境の改善
・酸処理剤等に由来する栄養塩、有機酸の挙動に関する調査・研究
・環境負荷の軽減に配慮したノリ養殖技術の確立
・水温上昇等に対応したノリ養殖技術（高水温耐性品種等）の開発

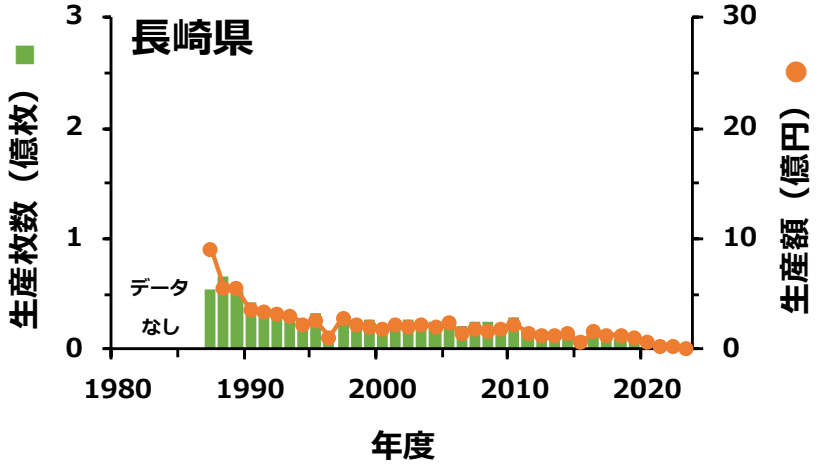
赤字は勉強会で、青字は他省庁で収集できた資料を示す
アンダーラインは今回収集した資料を示す

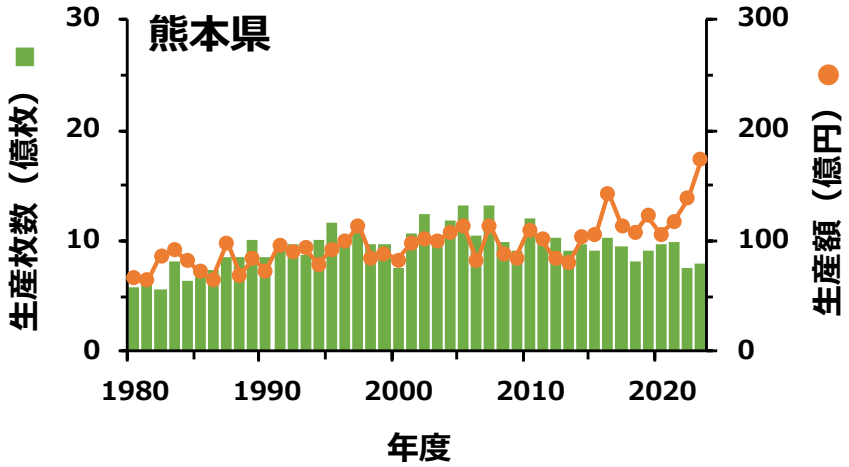
■　収集した資料の概要

①各県の生産量の現況、漁場利用状況
②珪藻赤潮の発生予察関係資料
③有機酸モニタリング結果
④水温上昇等に対応したノリ養殖技術（高水温耐性品種等）の開発









有明海４県におけるノリ生産枚数と生産額
（有明海四県ノリ担当者会議資料を基に作成）

2005年度～2021年度

	生産枚数（枚）	生産額（円）
福岡県	10～15億	100～184億
佐賀県	17～22億	187～249億
熊本県	8～13億	81～143億
長崎県	0.03～0.29億	0.3～2.4億

2022年度～2023年度

	生産枚数（枚）	生産額（円）
福岡県	6.4～7.7憶	105～160億
佐賀県	9.0～9.9億	167～223億
熊本県	7.5～7.9億	138～173億
長崎県	0.01～0.02億	0.2億

有明海４県におけるノリ生産枚数と生産額
（有明海四県ノリ担当者会議資料を基に作成）